

研究者：萩野谷 大，三浦 和仁，三原竜太郎，半谷 純一

(所属：北海道大学歯学部冒険歯科)

本多 丘人，齋藤 彩 (所属：冒険歯科顧問)

森田 康彦 (所属：徳島大学)，**青木 理紗** (所属：近畿大学)

滝波 修一 (所属：NPO ジョロナ代表理事)

Khurshiduzzaman 教授 (所属：Dinajpur Medical College)

Haider Ali Khan 助教授 (所属：Dhaka Dental College)

協力団体：Movement for Oral Health Care (MOHC)，Tooth Fairy (TF)

研究題目：バングラデシュにおける口腔衛生指導医育成事業のテストラン

背景：

JICA 草の根事業の経験から、適切な口腔衛生指導を行うと顕著な口腔衛生状態の改善がみられる事が明らかになった。しかし、適切な口腔衛生指導を行うことが出来る歯科医師の絶対的不足が明らかになった。

ジョロナはダッカ歯科大学・MOHC と共に口腔衛生指導専門医の養成を行っており、最終的には保健省・保健局に養成システムを移譲する方針で活動を行っている。

目的：

- ① バングラデシュの学童の口腔衛生状態が把握され、歯科医師の意識が理解する。
- ② 口腔衛生指導を行う「口腔衛生指導医」育成システムのテストランを行う。
- ③ 研究の過程で、バングラデシュの大衆の生活環境、Mentality を理解する。

実施：

本研究課題であるテストランを、(1)口腔検診・衛生指導に関する座学及び意見交換による意志・意識の統一、(2)ダッカ市内の小中学校での実地演習、(3)典型的な農村での実地試験の3段階に分けて行う予定であった。しかし、受け入れ側の多忙による準備不足とジョロナ幹部の健康状態悪化のため実施案を以下に報告するとおり「予行」に変更した。

(i) 口腔検診・衛生指導に関するセミナーと意見交換

8月2日、3日の二日間、ARISTOCRAT INN の会議室にて、MOHC、TF のメンバーに、Khurshid 教授、Haider 助教授が口腔衛生指導医育成システムの説明と口腔検診方法・対象者に適応する口腔衛生意識向上の動機付け・その歯磨き方法などにつきセミナーを行った。University Dental College の Akter 助教授 (MOHC 顧問) も指導医育成の方針に賛意を示し、積極的に若手の指導にあっていた。

また、意見交換の中で、英語と共にバングラデシュの公用語であるベンガル語に、津軽弁と薩摩弁のように、相互に理解できない多種の方言があることが明らかになった。



8月4日 日本人が経営する You and Me International School と Old Dhaka 訪問



8月5日

(ii) ダッカ市内にて、セミナーの成果を確認するための口腔検診・TBI

ダッカ南部にある Chinnoml Primary school (低所得者層の児童が通学) にて、検診と歯磨き指導を行った。



8月6日 ダッカからタルマ村へ移動 (Padma: ガンジス河を渡る)

タルマ村は、典型的なバングラデシュの農村で、伝統的な食生活がなされているが、全国的な傾向である「清涼飲料水」、「スナック菓子」、「氷菓子」の浸透が著名になってきている。また、

校庭に菓子売りがいるのがどこでも認められている。

8月7日 休養日 田舎を楽しむ

8月8日

(iii) 検診と衛生指導係・判定係の業務分担の試行

タルマ村の Billgobindopur Primary School で口腔検診と TBI を行った。

現地の若手歯科医が検診・TBI を行い、Khurshid 教授、Haider 助教授が点検・指導を行った。



8月5日、8日のテストラン予行の結果および考察：

- ・ 歯磨きの方法でブラシでなく指を使う割合は、市内の Chinnoml Primary school で 7.6% なのに対し、郊外の Billgobindopur Primary School では 20% と高い割合を示した。
- ・ 検診においては環境が悪い（暗環境、児童による騒音）ために、また現地 Dr. の基準が違っていたために集めたデータに誤差が生まれた。
- ・ 口腔衛生・歯磨き指導において次の問題点が明らかになった。
 1. 事前の模型による「磨く場所・磨き方」指導にややおざなり感がある。
 2. 磨く場所・方向など、知識と行動が一致していない。
 3. 問診時に次の児童との距離が保たれていないため、同じ答えをする傾向が見られたためにアンケートの結果に影響した。

以上の印象から、8月2日、3日に行われたセミナー形式の指導の際に、（以下の事項に注意すべきであったと）次回「本テストラン」時への改善点が明らかになった。

1. 検診時の問診方法の指導と実施にあたっての注意点の指摘
2. 衛生指導の必須事項の再確認
3. TBI を児童のレベルに合わせる（児童・高齢者などの状況に応じる能力）

成果発表：

2016 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）にて発表予定